

澁川 一流 柔術
無雙神傳英信流抜刀兵法

貫汪館会報

第73号

発行 貫汪館
発行日 平成二十四年十二月二十三日
森本邦生
広島県廿日市市宮内一四八〇

貫汪館居合道講習会（九月）

平成24年9月23日、廿日市市原小学校において、貫汪館主催の「鎖鎌と半棒、澁川一流柔術の居合」講習会が開催されました。当日は遠方からも多く御参加いただきました。今回お二人の方にその時の感想を書いていただきましたので掲載いたします。

「無理無駄を無くす」

今回の講習会で初めて手にした鎖鎌についてですが、日頃、居合で手にしている刀等の硬質のものと違い、力でごまかしの利かない鎖（麻紐で代用してありますが）の先に付いた分童を的に当てるのでは無く、相手に巻きつけ動きを制すると言う大層厄介な武器を扱う稽古からでした。何しろ初めて手にして稽古する上、相手も動いていると言う二重苦なので、気持ちに何かをさしはさむ余裕もなく、鎖を相手に巻き付け鎌で動きを封じると言う非常に困難な課題に専念しました。ここをこひねれば必ず上手いと言う物では無いのですが、体のどこかが硬いままだと絶対上手く行かない様で、人目も憚らずひたすら柔軟になるようにと心がける時間でした。

この日の講習内容である鎖鎌、半棒、澁川一流柔術の居合等、無雙神傳英信流抜刀兵法以外の稽古も付けて頂ける事を有難いと感謝しながら、武術全体に通ずる「無理無駄を無くす」と言う事を日頃の稽古でも肝心要、武術の一丁目一番地であることを常に頭におき、工夫を

怠らないようにと、改めて考えさせられる講習会でした。

（文責 永井 義隆）

「相手をイメージした動きへ」

今回の講習会では、初めて鎖鎌、半棒として澁川一流柔術の居合の形を稽古させていただきました。鎖鎌を使つての稽古は、いつも稽古している居合の形稽古とは違い、斬り込んでくる相手に対して分童を当てたり、腕に巻きついたり、身体が滑らかに居付く事なく動かなければなりません。私は、居合の課題である思いが強すぎると言う事が、思うように分童を当てたり、巻きついたりする事を妨げていました。

そんな中、お相手をしていただいた竹本治恵さんには、何度も何度も稽古させていただき、身体の動きの状態や思いの状態を事細かにご指摘くださり、大変充実した稽古をさせていただきました。そのお陰で、次の半棒では、鎖鎌で得た身体の遣い方を生かす動きが少してきたように思います。

ただ、最後の居合になると途端に固めてしまう癖が出てしまい、森本先生にご指摘いただきました。居合になると、相手がいない為に動きが固まったり、居付いたり悪い癖が出てしまいます。

今回の稽古は、居合を稽古する上で、相手をイメージした動きへと変わらなければならぬ事を気付かせていただく良い稽古となりました。これから、新たな気持ちで稽古に精進させていただきたいと思えます。

（文責 永井 ゆかり）



明治神宮日本古武道演武大会

平成24年11月3日（土）明治神宮西参道芝地において、日本古武道協会主催による、明治神宮 日本古武道大会が行われました。

貫汪館からは、無雙神傳英信流抜刀兵法を森本先生が、澁川一流柔術を森本先生、竹本康祐、竹本治恵が演武を奉納しました。

当日は明治神宮秋の大祭にあたり、古武道の奉納の他、全国弓道大会、合気道演武、百々手式、流鏝馬なども行われ、毎年国内外から多数の観客が見学に来られます。

古武道大会は、演武に先立ち、明治神宮至誠館新谷館長より、「本日は明治節のよき日に演武を奉納いただけることに感謝いたします。今年には明治天皇生誕160周年に当たります。明治維新にあたり明治天皇は、「国家に難しい問題があれば国民の心を一にしてその苦難に立ち向かうべし」とおっしゃられました。日本の武とは、艱難辛苦の先端にあつて武徳を示す、その勇気と知恵、気概などの表れではないかと存じます。本日は、諸先生方が日々鍛錬した武を御奉納いただければ、御祭神もお喜びになると思います。」とお言葉があり、続いて日本古武道振興会齋藤会長から、「諸先生方には、遠近にかかわらず、この尊い地に参集いただくことに感謝いたします。日本古武道振興会は昭和10年に発足し、その年から毎年明治神宮で演武を奉納しています。戦争で一時中断した時期もありましたが、今大会で77回目になります。我々は日本人の魂、侍の心を持って流祖から伝えられた技法・心法を受け継いできました。これを忘れれば武道ではなくなります。今後の古武道の振興及び発展のため、日頃の武技を奉納いただくようお願いいたします。」とお話がありました。



古武道の奉納は、北は北海道から南は熊本までの56流派が、第一会場、第二会場に分かれて演武を行いました。各流派とも、それぞれの特徴をよく出されており、堂々と落ち着いて演武されておられたのが印象的でした。それは、豊富な稽古量があるからこそであり、自信の裏付けになっているのだと思います。

みなさんも、いつでも堂々と演武出来るような気持ちで稽古に励んでいただきたいと思えます。

(文責 竹本 康祐)

明治神宮演武大会見学の感想

この度、五月に行われた京都での演武会に続き、明治神宮で行われた演武大会の見学をさせていただきました。このような大規模な演武会では様々な流派の動きを見ることが出来るので、とても勉強になり自己啓発されます。流派が違っているので、それぞれ動き、考え方は異なりますが、どの流派も稽古量が豊富で素晴らしい演武をされていきました。あらためて日々の稽古の大切さを実感し、また「見る眼」を養う稽古もでき、私にとっては旅費以上の収穫がありました。今回の演武大会で得たことを今後の稽古に役立てて行きたいと思えます。

(文責 三崎 俊広)

貫汪館居合講習会(十一月)

11月18日(日)、貫汪館主催の居合講習会が廿日市市立原小学校体育館で開催されました。当日は、講習会に初めて参加された未経験者の方をはじめ、道場外からもたくさんの方にご参加いただきました。今回の講習会では、まず前回の復習として、半棒と鎖鎌の3本ずつを稽古しました。

ここでは臆下丹田を中心とした動きを再確認し、その後、無雙神傳英信流抜刀兵法の英信流奥の立業について、形の想定の説明を受けながら、自分と相手との距離感や、それぞれの想定での体の遣い方、目付等を学び、視線の狂いひとつでも刀が定まらなくなるなどなどの体験を通して理解をしながら進められました。

次に、大石神影流のうち、天狗抄の10本を二人一組となり、相手の心のおこりを捕えることを学びました。ここでは、手順を追うだけの動きと、相手の心をつかえて発する動きとは質的に異なることを理解する事ができました。

最後に、まとめとして講習会の初めに行った半棒の形3本を稽古し講習会は終了となりました。

この度の講習会では、自分自身が無意識の内に「居合」、「剣術」、「柔術」と線引きをして壁をつくり、形に捕らわれて身動きができなくなっていることに気付く良い機会となりました。今回の講習会での経験を今後の稽古に活かせるよう努めてまいりたいと思えます。

(文責 竹林 哲也)



名古屋での活動報告

平成24年11月28日(水)、森本先生をはじめ、多くの方の励ましやアドバイスを受けられ、澁川一流柔術の活動を名古屋で始めることができました。

現在、居合講習会にも参加されている稲垣さんと、毎週火曜もしくは水曜の夜、名古屋城近くの愛知県スポーツ会館で、約2時間の稽古を行っております。広島と異なり、他の競技者の方とスペースを共有しながらの稽古ですが、稽古相手さえいけば、何不自由のない環境です。以下、名古屋での活動開始に至る私の思いをお伝えいたします。

今年、11月に仕事の都合で急に名古屋に転勤することになり、広島でのご指導を受けることが出来なくなりました。道場を辞めるしかないのかなどと散々悩んだ末、やはり稽古を続けたいという気持ちを森本先生にお話したところ、名古屋で自分が主体となり稽古を続けることを薦めていただきました。

柔術を学ぶようになって約4年半、覚えのいい方ではない私が、人に指導することになるとは、思ってもないことでしたが、森本先生と竹本師範代からの、「人に教えることで見えてくることがある」とのお言葉をいただき、遠く離れた場所まで上達するにはこれしかないと思い、手探りながら、更なる強い覚悟をもって柔術の稽古を始めることを決心致しました。いざ指導するという立場で稽古してみると、今まで自分がどんな壁にぶつかっているか、先生や兄弟子からどのような指導を受けてきたのかを思い出す機会が多くなり、それだけでも自分自身の稽古になることに気付きました。しかし、自分で気付くだけでは不十分で、それを体現してお伝えできなければ指導を受ける方の上達には繋がりませんし私自身の上達も望めません。そのことを肝に命じ、広島で教わったことを忘れぬよう、これまで以上に、稽古に精進していく所存でございます。

(文責 西川 朋樹)

平成二十四年貫汪館稽古納め

廿日市天満宮奉納演武会



平成24年12月16日(日)、よく晴れた柔らかな陽射しの下、廿日市天満宮にて奉納演武会が行われました。

正式参拝の後、演武に先立ち、貫汪館館長森本邦生先生より「今日は一年間稽古してきたありのままの姿を神様に見て頂く日です。素直な気持ちで真心のこもった演武をして下さい」とのお言葉を頂きました。

演武が始まり、子供達の純粹で真剣な眼差しと、素直で柔らかな動きを目の当たりにして、今まで同じ事を根気よく御指導して頂きながらも、勝手な動きを繰り返すばかりの自分を、大変恥ずかしく思いました。演武終了後には、貫汪館顧問 上條雅弘先生より「今日の演武が良く出来たと感じた方は、来年の稽古の糧に、だめだったなと感じた方は、来年の課題にして、正しい稽古を続けて下さい」とのお言葉を頂きました。



また、同じく顧問 岡田民哉先生からは、「無になる」という感覚を、自転車の運転に例えていただき、意識せずとも身体を扱える様になる事の重要さと、そのためには、教えられた事の表面的な部分だけでなく、その深奥にある部分を自ら感じ取ろうとする心構えで稽古をする事が大切であるとお話をしていたいただきました。

(文責 中篠迫 佳子)

平成二十五年貫汪館行事予定

一月十二日 柔術稽古始め

十九日 森本先生講演と演武

(広島市東区 総合福祉センター)

二月十日 第36回日本古武道

演武大会

(兵庫県立武道館)

三月一七日 居合講習会

(柿の浦集会所)

四月七日 広島護国神社奉納演武

五月四日 京都下鴨神社奉納演武

五日 京都白峯神社奉納演武

六月 昇級審査

七月六日〜七日 澁川一流夏合宿

九月 日本武道学会

十一月三日 明治神宮奉納

十二月 日本古武道大会

昇級審査

稽古納め

廿日市天満宮奉納演武

※ 最新予定はホームページを御覧下さい。